



飛騨市が描く 広葉樹のまちづくり

飛騨市が取り組む「広葉樹のまちづくり」に関する報告会が2月16日、飛騨市図書館で開かれました。報告会では、飛騨市産広葉樹を使った新しい木製品の発表や、木のワークショップなどが行われ、お子さん連れの家族などで賑わいました。

市内広葉樹の現状と 活用の難しさ

飛騨市は面積の93%が森林です。また、その約7割を広葉樹が占めており、春の新緑、秋の紅葉など、四季を通じて私たちの目を楽ませてくれます。しかしながら現在、市内で伐採される広葉樹のほとんどはチップ化され、製紙用あるいは燃料用として市外に、しかも家具等に活用される木材と比較して非常に安価で流出しています。

これは、市内にはミズナラやブナを中心とした豊富な資源がある反面、その平均胸高直径は26cm程度と細く(※)一般的に家具等には使いづらいことが理由として挙げられます。

※平成28年度飛騨市広葉樹資源
量調査業務「結果による



広葉樹資源の市内循環に 向けた新たな挑戦

こうした背景を踏まえ、飛騨市は平成27年度に市内で伐採される広葉樹をチップなどより価値の高い木製品として販売できるよう、様々なノウハウ、チャンネルを有した民間企業2社との第三セクター「株

飛騨の森でクマは踊る」を設立。また、平成29年度には飛騨地域の木工作家による「ひだ木(ギ)フト」プロジェクトが発足しました。

この2つの企業・プロジェクトでは、飛騨市産の小径木広葉樹を活用した製品の開発から販売までを一貫して取り組むことにより、これまで飛騨市の広葉樹が安価に市外へ流出していた状況に歯止めをかけ、少しずつですが市内に新しい経済の循環を生み始めました。

このほか、広葉樹活用のノウハウを有する北海道中川町との「姉妹森」協定の締結や、飛騨市の魅力について市民とともに学ぶ「広葉樹のまちづくりセミナー」の開催などにより、広葉樹の価値を広く知っていただく機会の充実にも努めています。





2019 広葉樹のまちづくり報告会

今回の報告会では、平成30年度に新しく開発・製作された木製品について、「ひだ木フト」プロジェクトの一員であるm



Yuki kaku代表の盤所杏子さんから基本的なコンセプトなどについて報告があった後、プロジェクトに参画する6工房7人の木工作家の皆さんから、製作の上で苦労した点、工夫した点などについて発表がありました。全ての製品は、木工作家の皆さんが試行錯誤を重ね、これまで活用が難しいとされてきた広葉樹の小径木をその確かな技術で丁寧に製作したもので、どれも作り手の想いがこもった素敵な木製品に仕上がりました。



（製品販売）までの仕事に携わる関係者によるトークセッションが行われ、飛騨市の「広葉樹のまちづくり」の今後について活発な意見が交わされました。



永堀知鶴さん
【Yurumade】



片岡清英さん
【Kinnoworks】



北奥美帆さん
【Kitami】



堅田恒季さん
【Calm's】



北川啓市さん
【北々工房】



鈴木岳人さん
【山岳木工】



広葉樹のまちづくりの実現に向けて

市内の森林、とりわけ多様な広葉樹は、大きな可能性を秘めた飛騨市の大切な宝ものです。森林を守り育て、価値ある森林を次の世代に残していけるよう、引き続き魅力あふれる製品の開発・販売を行っていくとともに、今後は森林の散策や山菜・薪等を利用する機会を充



実を図り、さらには市内の大工や工務店等と連携して建築分野（内装材等）においても積極的に飛騨市の広葉樹を利用する、「広葉樹のまちづくり」を市民の皆さんと一緒に推進していきます。